

関西、関東、中部の第4四半期成長率(推計)

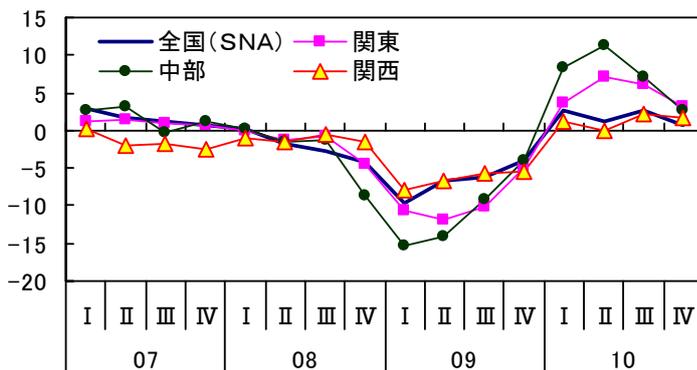
【成長率について】

- 既存の統計を用いて、関西および関東、中部の3地域における四半期成長率(名目・前年比)の推計を行った。これまで地域別の成長率は年度ベースの発表に限られており、四半期の推移は個別の統計から感覚的に掴むしかなかった。
- もちろん、この推計は既存の統計を用いたものであるため、正確性などには限界があり、結果についても厳密な数値の試算を行うことが目的ではない。推計結果の成長率をみる際は、あくまでも数値の絶対値に着目するのではなく、全国との比較や、地域間での比較、さらに同一地域での時系列変化をみることが中心となる。

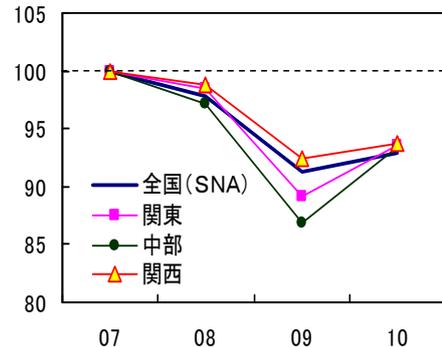
【推計の結果】

- 直近の2010年10~12月の成長率(名目・前年比)は、関西は1.7%増という結果となった。全国の0.6%増よりも伸び率は大きいものの、前年のマイナス幅の差を加味する必要がある。大きな傾向としては、リーマンショック以降、関西は全国とほぼ同様の動きとなっており、今四半期もその傾向が続いている。
- 関西と関東、中部との差については、住宅投資、消費が比較的堅調に推移した関東、設備投資の伸び率の高かった中部に対し、関西は消費、設備投資、公共投資で3地域における最低となっている。輸出が停滞したことで内需の弱さが目立つ形となった。
- 一方、10~12月の成長率が出たことで2010年の年間GDPについても推計が可能となった。あくまでも既存の統計を用いたものであり、正確性には限界があるものの、2007年を100とした推移をみると、2010年は全国以下、各地域ともに93~94となっている。2009年に大きく落ち込んだ関東、中部は2010年に持ち直し、ほぼ全国、関西と同じ水準まで回復している。全体的にみると、名目額でみた各地域のGDPの回復は非常に遅く、リーマンショック前の水準に戻るのは早くても2014年とみられる。
- 今四半期の関西の全体的な評価としては、「成長率は全国を上回ったものの、輸出の停滞によって消費や設備投資といった内需の弱さが目立つ形となり、関東、中部よりも低い成長率に終わった」と纏められるものとみられる。

(%) 全国および3地域の四半期GDP推移(名目・前年比)



(%) 2007年を100とした場合のGDP推移(暦年・名目額)



四半期成長率(名目・前年比)

	2007				2008				2009				2010			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
全国(SNA)	2.9	1.7	1.2	0.7	0.2	-1.7	-2.8	-4.2	-9.7	-6.8	-6.2	-3.9	2.7	1.1	2.7	0.6
関東	1.2	1.4	1.1	0.8	0.1	-1.3	-0.7	-4.5	-10.7	-11.9	-10.1	-5.0	3.7	7.0	6.2	3.2
中部	2.8	3.2	-0.3	1.2	0.3	-1.5	-1.4	-8.6	-15.3	-14.1	-9.2	-4.0	8.4	11.4	7.2	2.8
関西	0.3	-1.9	-1.8	-2.6	-1.1	-1.5	-0.5	-1.6	-8.0	-6.6	-5.7	-5.3	1.2	-0.1	2.2	1.7

※全国はSNA統計、各地域は推計による数値